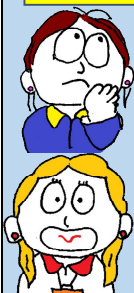




同和問題（部落差別）を考えるー2

～「人権に関する市民意識調査」（令和5年度調査）をふまえて～



この前、同和問題の研修会に参加した人から、「同和地区の住宅購入」の話を聞きました。どうにか教えてください。

松江市の「人権に関する市民意識調査」（令和5年度）の結果から説明をします。

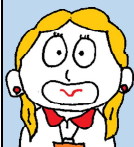


問いの番号は、松江市「人権に関する市民意識調査」の設問の番号です。

問15 仮に、あなたが住宅を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望に合っても、その物件が同和地区にあるとわかったら、どうしますか。（選択は1つ）



「全く気にしない」が16.7%、「どちらかといえば避けない」が7.4%をあわせると24.1%です。避けない方は、およそ4人に1人の割合ですね。



そうですね。一方「どちらかといえば避ける」と「避ける」をあわせると46.3%で、約半数の人に購入の意思が影響されていますね。

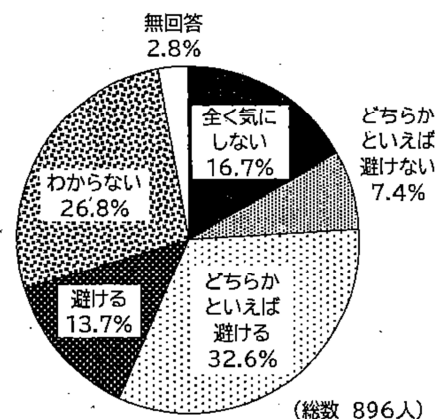


この設問は、過去との比較はどうなっていますか？

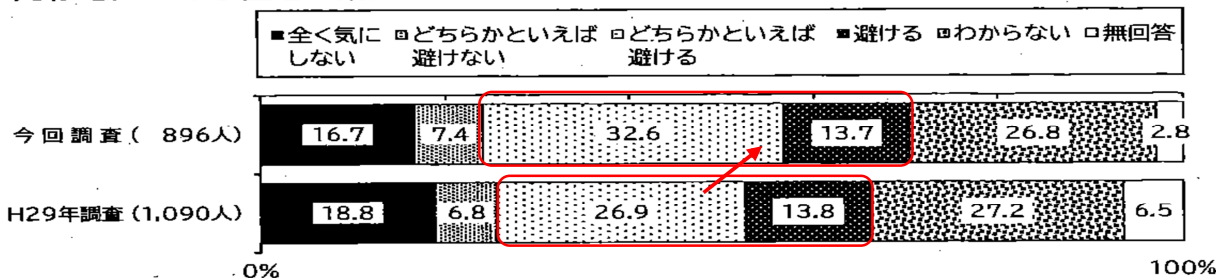


この設問は前回の調査から実施しています。平成29年と比較したものが次のグラフです。「全く気にしない」と「どちらかといえば避けない」をあわせた割合はあまり変わってはいませんが、「どちらかといえば避ける」と「避ける」をあわせた割合は高くなっています。

図15-1 同和地区での住宅購入（選択は1つ）



同和地区にある住宅を購入することについて（回答は1つ）



「どちらかといえば避ける」「避ける」という人は、同和問題に関わりたくないという意識があるのではないかと。同和問題は基本的人権にかかわる問題で、早急に解決しなければならない国民的課題です。

自分をみつめてみましょう ～“わがこと”としてとらえるために～

次のイラストを例にして、考えてみましょう。

「Aさんは気に入った住宅があったので、購入して住みました。しかし、その後その住宅が同和地区にあると分かり、Aさんは何か複雑な表情を浮かべています。どうしてでしょうか。」

気に入った住宅



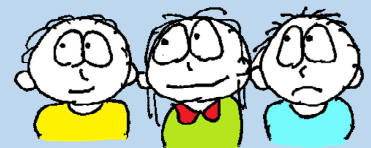
Aさん
周りの人



複雑な表情を浮かべる Aさん



周りの人



えっ、どうして、複雑な気持ちになるの？



おそらく、Aさんは気に入った住宅に住めたけれども、同和地区と分かって、周りの人の声が急に気になりだしたのではないだろうか。



周りの人の声って？



周りの人の声というのはね。Aさんが同和地区に住むことによって、同和地区の人とみなされることではないでしょうか。



みなされる？ Aさんも購入する前は周りの人だったよね。今まで同和地区に対して、どんなイメージを描いていたのだろう。



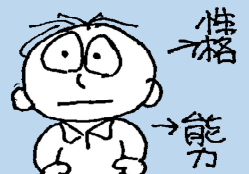
Aさんの複雑な気持ちには、気に入った住宅に住める喜びがある一方、周りから受ける差別への不安や今まで気づいていなかった同和地区に対する偏見などがあったのではないのでしょうか。それが、周りの人の声として聞こえてきてはいないでしょうか。
みなさん、Aさんと自分を重ねて考えてみましょう。

周りの声



周りの声

特技



どこに住んでいても、お互いを尊重することが大切

今でも土地や住宅購入に際して、宅建業者等に同和地区かどうか尋ねたり、インターネット上で調べたりする人がいます。これはプライバシーの侵害に当たり人権侵害です。本来差別は、女性、子ども、高齢者など人に対するものです。しかし、同和問題は「人と土地」に一体的に向けられる差別です。**人はどこに住んでいても、お互いを尊重することが大切です。住んでいるところによって差別してはいけませんし、差別されません。**

*「宅地建物取引業法」によって業者は同和地区かどうかを答えなくてよいことになっています。また、ネットについては県、市において定期的にモニタリングが行われ、部落差別につながる書き込みや動画を発見したら、法務局等に通報し削除依頼をしています。

